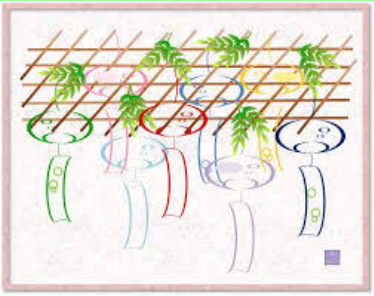
季節はずれの風鈴



独りぼっちでいることに

安心してしまうのは

傷付くことが怖いから

寂しさだけを我慢すれば

悲しむことも

傷つくこともない…

あの日、あの時

あの場所で

きみに会うことができたなら

何かが

変わったのかな…？

あの日、あの時

あの場所で

ぼくの気持ちを伝えていたら

何かを変えることが

出来たのかな…？

言葉を伝えるには

あの時のぼくは臆病すぎて

伝わらなかった言葉

伝えられなかった思いは

まだ、心の奥にしまったまま

季節はずれの風鈴のように

時に残され泣いている

ぼくなりに守るものがあり

ぼくなりに頑張ってきたものがあり

それは

きみへの思いがあったから

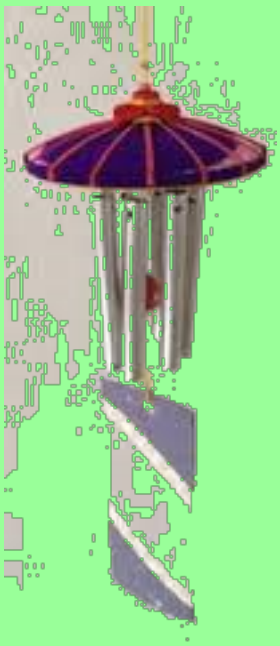
今も…、これからも…

伝えることのない思い

だけど続く

きみへの思い

それは、まるで

真夏の透き通る風鈴のように

時を受け入れ泣いている